高知県教育だより
夢のかけ橋 12月
第103号（令和7年12月発行）

Topics 1 私たちの声が、未来を変える。 « 次世代総合教育会議 »

令和７年７月 25 日（金）に知事や県教育長・教育委員と意見交換をする「次世代総合教育会議」が開催されました。この会議には、県内の高等学校・特別支援学校高等部（岡豊高、窪川高、伊野商業高、日高特別支援学校高知みかづき分校、土佐女子高）に通う６名の生徒が委員として参加し、それぞれが考える「自分の未来・夢について　～高知家の生徒一人一人の夢を実現するために理想的な学校・教育とは～　」について発表をしていただきました。

高校生の委員の発表を受けて知事からは、「今のこの流れの中で、若者の最前線で今勉強している高校生の皆さんからの率直なご要望を聞けたこと。また、要望に至るまでの過程で、地域や地元をよくしていきたいという思いで努力いただいているということ。このことは大変うれしく、ぜひ一緒に高知を良くしていきたい。こうした対話をしていく中で、高知の元気な未来を切り開いていきたいと思う」という話がありました。

いただいた高校生の委員のご意見やご提案、また本会議で協議された内容は、本県の教育の振興を図るための参考とさせていただきます。

なお、当日の会議の様子や高校生たちの発表資料は県 HP 及び「とさまなチャンネル」で公開中です。

県 HP　https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2025073000014/　二次元バーコードはこちら

R7 会議 HP

高知県教育委員会 YouTube チャンネル「とさまなチャンネル」でも、今年度の「次世代総合教育会議」の様子を公開中!!

Topics 2 中堅教員（教諭、養護教諭）と県教育長との対話

令和７年８月 18 日（月）に、中堅教員（教諭、養護教諭）の皆さんと県教育長が、日ごろの業務で考えていることや実践していることなどについて、対話（意見交換）する会を開催しました。

対話の趣旨

○　一定の教職経験を有し、学校運営の核となる中堅教職員の**日々の業務の状況、やりがいや課題について、教育長が直接聞く場**を設定することで、現在の学校現場等の状況について「生の声」を把握し、**県の教育施策等の運用に活かす**。

○　所属の異なる同年代の別校種、別職種の教職員との交流を通して、**新しい情報を収集し、広い視点を有する教職員の育成に繋げる**。

参加していただいた中堅教員の皆さんには、

「子どもたちにどのような力を身に付けさせたいか」、
「若年教職員への支援など、学校組織づくりに向けて心がけていることはどんなことか」
「地域（学校外）との連携をどのように考えているか」

など、日々感じる様々なことについてお話いただきました。

子どもたちにどのような力を身に付けさせたいか

❑**自己決定できる力が必要。**総合的な学習の時間に町をよくするためにどんなことができるかを考えている。

❑子どもに学習の方法やペースを任せるような学習をしたところ、意欲的な姿を見せた。子どもにとって、自分が自ら選択したり、決定するということは大切。

❑自ら一歩踏み出しにくい子どもがいる。**いい塩梅、折り合いの付け方を身に付けさせたい。**

❑**自分を表現するため、相手のことを理解するため、コミュニケーション力が必要。**いろいろな経験をすることで好き嫌いが直接的にわかることがある。

若年教職員への支援など、学校組織づくりに向けて心がけていることは

❑**任せることを大切にしている。**細かく言わず、信じて任せている。

❑**周りにいつでも話ができる状態、関係づくりはすごく大事。**話しやすい存在になれたらいいと思っている。

❑わからないことを頼まれ、わからないままやって失敗した経験がある。若年教員には、**できるだけ具体的に伝えるようにしている。**

❑**一人は無力ではなく微力であるからみんなを巻き込んでやろうと意識的にやっている。**変化に気付き、伝えるようにしている。

❑ 忙しい時期に、あえてバレーなどで交流の時間をとったら、結構好評。

地域（学校外）との連携をどのように考えているか

❑外の研修に積極的に行くことが大切。**そこで知り合った人との繋がりが活きる。**

❑**リアルを学ぶという意味でも地域との連携は非常に重要。**地域学校協働本部事業の予算は大変大事。

❑若年教員より水泳に対する不安の声を聞く。**専門性の高い外部の方**が入ってくれるとありがたい。

❑部活動に外部から人材が来てくれると、専門外の教員にとっても、人間関係の面でも子どもにとってもよいと思う。

この他にも、今年度はコミュニティ・スクール関係者や PTA 関係者、教育事務職員との対話も実施します。

対話の様子は、今後高知県教育委員会 YouTube チャンネル「とさまなチャンネル」にて順次公開する予定です。準備が整い次第、Groupware の掲示板等でお知らせしますので、ぜひご覧ください。

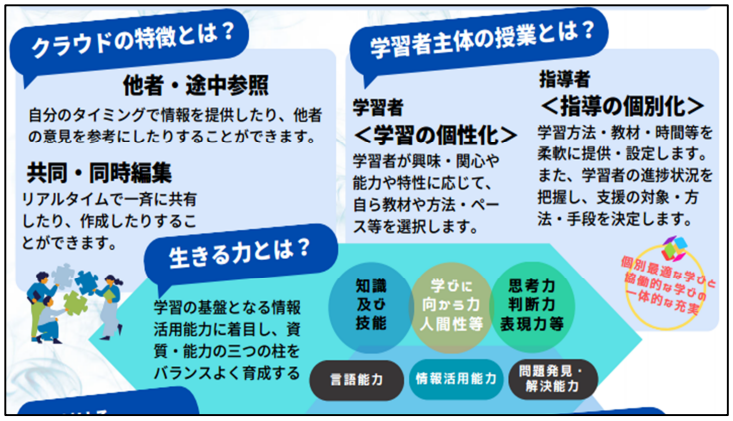
詳しくは、教育政策課のホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310101/

問い合わせ
教育政策課　教育企画担当
TEL：088-821-4731

Topics 3　教育ＤＸの推進　～生きる力を育む学びへの転換～

教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）とは、教育をデジタル技術を活用して変革し、新たな教育的価値を生み出す取組を意味しています。これにより、予測困難な社会を生き抜いていく「生きる力」を育成するために、子ども自身が自己の学びを選択・決定する学習者主体の授業への転換を進めています。

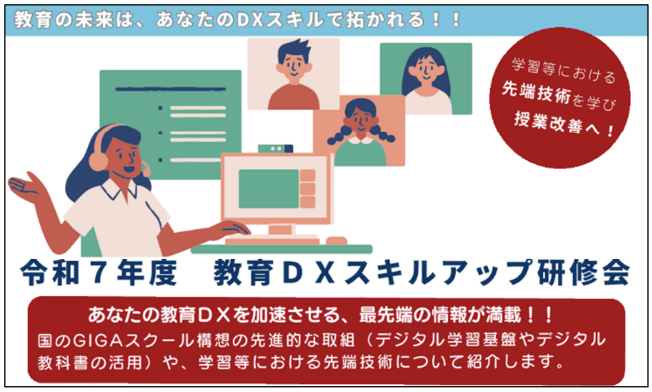
学習者主体の授業では、「いつでも・どこでも・誰とでも・何度でも」、情報を共有・参照できるクラウドの特徴を生かして、子どもが自分に最適な学びを自己調整しながら学び進めることを目指しています。



本年度、この学習者主体の授業づくりを県内の５市町において推進しています。さらに、当該５市町内の拠点校において、県内の教職員が実際の授業を参観し、授業づくりについて情報を得たり、協議したりして学ぶ場を設けました。この授業公開には、11 月現在で 1300 名以上の教職員等が参加しており、先生方の関心の高さがうかがえました。

～授業ＤＸ　■指定地域　拠点校～

■香南市	野市中学校	野市小学校	
■本山町	嶺北中学校	本山小学校	吉野小学校
■いの町	伊野小学校		
■四万十市	中村中学校	東山小学校	
■高知市	城北中学校	初月小学校	



また、学習者主体の授業づくりを進めるために、生成ＡＩや教育データの活用について学ぶ「ＩＣＴスキルアップ研修会」を年間４回実施し、第３回までに約 400 名の教職員が受講しました。

さらに、対話型ＡＩを活用した学習支援アプリを県内の 23 校の中学校・義務教育学校（後期課程）に実証的に導入し、効果を検証しています。この学習支援アプリは、生徒の問いかけに対してすぐに答えを出すのではなく、問題解決のヒントをくれたり、英会話の練習相手になってくれたりするものです。生徒が対話型 AI を活用することを通して、生徒の学習に関する不安や悩みの解消を図るとともに、生徒の英語力向上や授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化の促進に取り組んでいます。

📢教職員ポータルサイトにＧｏ！

過去の教育ＤＸ指定校の取組や、「教育ＤＸ校内研修パッケージ」など、役立つ情報を教職員ポータルサイトにて共有しております。ぜひ、ご活用ください。

詳しくは小中学校課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/

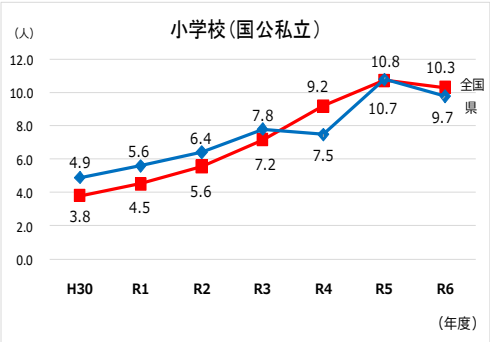
問い合わせ　小中学校課　教育ＤＸ推進担当
TEL：088-821-4735

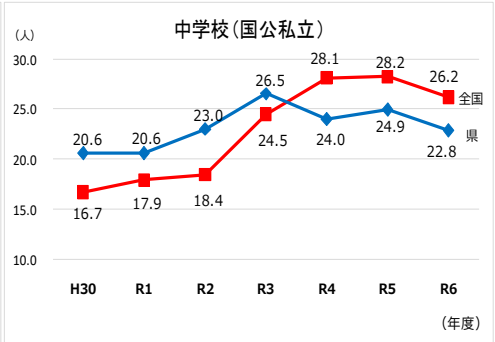
Topics 4 令和６年度児童生徒の生徒指導上の諸課題に関する調査の結果について

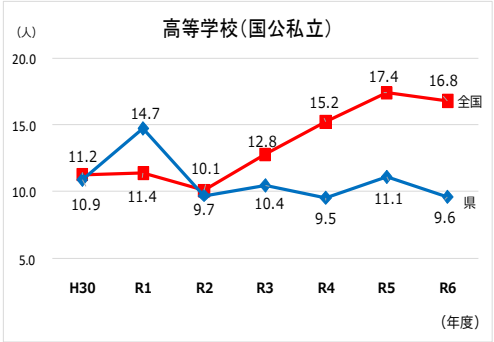
「令和６年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）の結果が10月29日に公表されました。第４期高知県教育振興基本計画の基本目標「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」に設定している測定指標の状況等は以下のとおりです。

▶調査結果の概要

■新規不登校児童生徒数　※数値は1,000人当たりの新規不登校児童生徒数



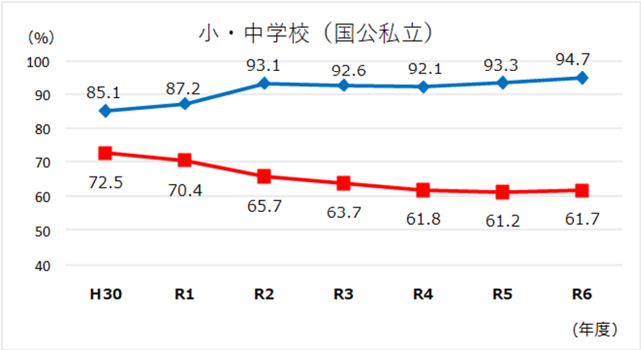


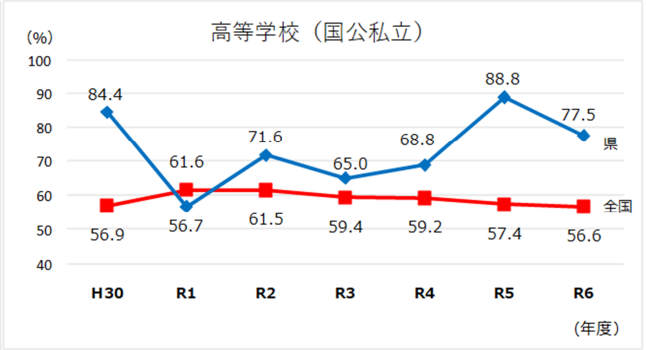


・小・中学校における1,000人当たりの新規不登校児童生徒数は、小学校は9.7人（前年度比1.1人減）、中学校は22.8人（前年度比2.1人減）という結果となりました。
・小・中学校の1,000人当たりの不登校児童生徒数は34.9人で、全国平均（38.6人）を３年連続下回りました。この背景として考えられることは、不登校の兆しが見える児童生徒を学校全体で情報共有し、見守りや声がけ、個人面談など早期に対応する組織体制が進められてきたことがあげられます。また、学校内の支援の場として校内サポートルームの設置拡充に取り組み、設置した中学校では生徒の欠席日数が減少し、新規不登校生徒数も減っています。
・本県では、個々の児童生徒の状況や抱えている課題に応じた支援を行うことが重要と考え、スクールカウンセラー（ＳＣ）やスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）の配置充実を図ってきました。各学校で実施されている校内支援会において、ＳＣ・ＳＳＷの専門性を生かした支援策の検討が行われるようになっています。

・高等学校における1,000人当たりの新規不登校生徒数は、9.6人（前年度比1.5人減）という結果となりました。
・令和６年度の高等学校における1,000人当たりの不登校生徒数は15.4人（前年度比0.5人減）で、全国平均（23.3人）との比較では３年連続で下回る結果となりました。
・不登校の要因は、生活リズムの不調や学業不振、学校生活に対してやる気がでない等、家庭環境や人間関係などの要因が複雑に絡み合っている場合が多くなっています。
・中学校で不登校を経験した生徒が高等学校に入学している現状を踏まえ、中学校からの確実な引継ぎと個に応じた支援が必要と考えられます。

■不登校児童生徒のうち学校内・外で相談・指導等を受けている割合

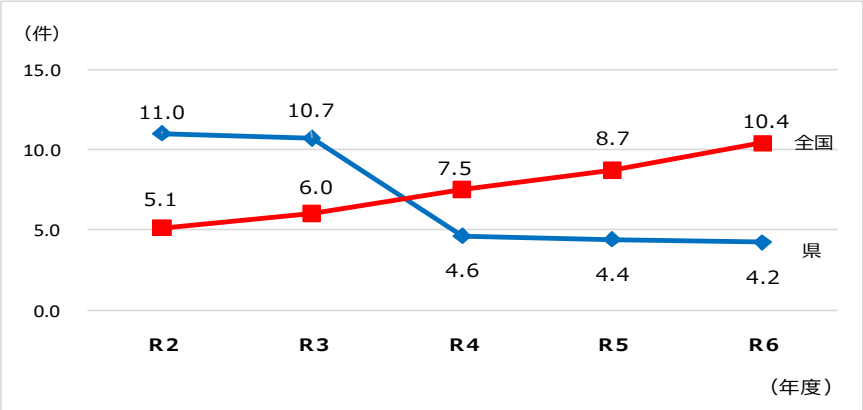




・不登校児童生徒のうち学校内・外で相談・指導等を受けている割合は、小・中学校は94.7%（前年度比1.4ポイント増）、高等学校は77.5%（前年比11.3ポイント減）という結果となりました。
・本県では、平成29年度からＳＣ等が全公立学校に配置されていることから、学校内外の機関等での相談・指導等を受けた不登校児童生徒の割合が全国と比べ高い状況が続いています。今後も、これらの専門家をより効果的に活用しながら、児童生徒への支援を行っていくことが必要です。

■小・中・高等学校における暴力行為の発生件数（国公私立学校）

※数値は 1,000 人当たりの発生件数

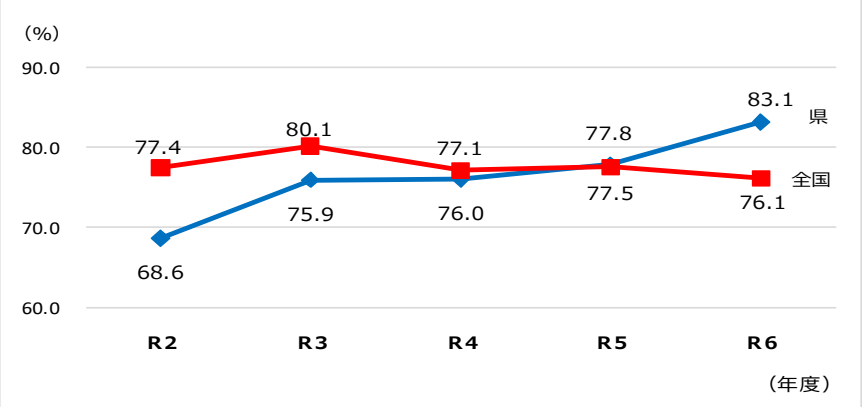


・小・中・高等学校における暴力行為の1,000 人当たりの発生件数は、令和５年度から0.2ポイント減少し３年連続で全国平均値を下回りました。

・それぞれの学校で児童生徒の実態に応じた支援策を全教職員が共有し実践してきました。こうしたことが県全体の暴力行為の発生を抑制することにつながったものと考えます。

・今後も継続して、児童生徒一人一人の状況に応じた未然防止の手立てが行われることが重要です。

■小・中・高・特別支援学校におけるいじめの解消率（国公私立学校）



・小・中・高・特別支援学校におけるいじめの解消率は 83.1％で、令和 5 年度から 5.3 ポイント増加しています。

・この背景としては、「いじめ防止対策推進法」に基づき、各学校でいじめ事案に組織的に取り組まれていること、また、ＳＣ等による支援や相談を受けている割合が全国と比べて高く、早期に対応がなされていることなどが考えられます。

教職員の皆さまへ

令和６年度の調査の結果、暴力行為の発生件数や不登校の出現率は全国値より下回る結果となっています。

しかしながら、小・中学校不登校児童生徒数は全国的にも増加傾向であることから、今後はさらに、これまでの取組を充実させていくとともに、不登校児童生徒の学びを継続させるため、子どもが学びたい時に学べる場所や機会の確保も必要となってきています。

いじめについては、重大事態の発生件数は昨年度より減少したものの依然として発生しており、引き続きいじめの積極的な認知を進め、いじめが起きても重篤化しないように早期に解消されるための組織的な取組が必要です。

県教育委員会では、引き続き、「第４期高知県教育振興基本計画」に基づき、子どもたちが安心して学ぶことができる環境づくりに取り組んでいきます。

各校においては、いじめや不登校が生じにくい学校づくりを進めるために、「生徒指導提要」にも示されているように、教職員と子どもたちとの間に確かな信頼関係を築くことが重要です。日常のあらゆる教育活動の中で、子ども一人一人をかけがえのない存在としてしっかりと受け止め、共感的理解と愛情を持って向き合うことが大切です。こうした真摯な姿勢が子どもたちに伝わることで、子どもたちは安心して学べるようになり、問題の未然防止や早期発見につながる良好な信頼関係を築くことができると考えています。

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果について、文部科学省によるコメントや調査結果の詳細は、文部科学省ホームページに掲載されています。

＜文部科学省　公表資料ＵＲＬ＞　https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm

調査結果の詳細は人権教育・児童生徒課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310801/

問い合わせ　人権教育・児童生徒課　いじめ問題対策担当
TEL：088-821-4722

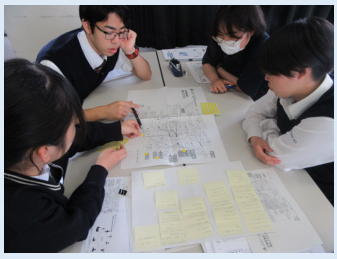
Topics 5 令和７年度「高知県高校生防災サミット」について

令和６・７年度実践校	室戸高校、高知東工業高校、大方高校、宿毛工業高校
令和７・８年度実践校	高知国際高校、窪川高校、四万十高校、中村高校

自校での防災活動の実践

■第１回学習会　　６月８日（日）
場所：高知丸の内高等学校
参加：実践校６校 生徒 19 名　教員７名
内容：
○講話「災害関連死の問題を通して考える
～"高知県"で育った私たちにできること～」
講師　Peach　Aviation株式会社
山﨑　健司　氏
○講話「高知県で起こりうる気象災害について」
講師　高知地方気象台　防災管理官室
地域防災係　森下　葵　氏
現業班員　谷脇　翔　氏
○グループワーク
○R6・７実践校の取組報告

■第２回学習会　　８月 21 日（木）
場所：高知県立高知青少年の家
参加：実践校８校 生徒 19 名　教員８名
内容：
○講話「災害時の情報活用について」
講師　高知地方気象台　防災管理官室
地域防災係長　重岡　昌嗣　氏
○講話「国内災害救護活動について
～能登半島地震の活動より～」
○演習　赤十字防災セミナー
「ひなんじょたいけん」
講師　日本赤十字社　高知県支部
事業推進課長　吉岡　邦展　氏



令和7年度 高知県高校生防災サミット

「高知県高校生防災サミット」（参集とオンライン方式を併用するハイブリッド方式により開催）

令和７年 11 月１５日（土）に、高知県庁正庁ホールで本年度の「高知県高校生防災サミット」を開催しました。４６校から高校生及び教職員が参加し、関係者も含めると総勢約 150 名が参加しました。

津波災害だけに捉われず、本県で想定される全ての自然災害について学ぶ機会を設け、総合的に災害を捉えられるようにと昨年度より名称を「津波サミット」から「防災サミット」と改め、地震や津波以外の災害についても、各実践校の実態に即して総合的に学び、実践してきました。

今回のサミットでは、令和６・７年度の実践校及び県外高等学校（宮城県多賀城高等学校）の取組発表、高校生のときに東日本大震災で被災された阿部任さん（公社　3.11 メモリアルネットワーク）の講演とグループワークを実施しました。最後は、生徒代表として高知東工業高校の今田晃琉さんが「一人でも多くの命が生き延びるためには実際の災害を想定した様々な訓練が必要です。多くの人々に私たち高校生が伝えていきましょう。Road to Happy End です。」とサミットを締めくくりました。

【阿部さんによる講演】

阿部さんからは「私の失敗から考える"今"できること」というテーマでご講演いただきました。発災後、すぐに避難ができなかった後悔と罪悪感に苦しんだことや、なぜ伝承活動が必要なのかについてお話いただきました。終了後の感想には「**あなたの行動で救える命がある。」という言葉がとても印象に残った。私もこの場で学んだことを学校に帰っても深く考え、周りの人たちと共有していきたいと思う。**」等、来る南海トラフ地震のことを考えながら、講演の内容を真摯に受け止める参加者の姿が多く見られました。

詳しくは学校安全対策課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/

問い合わせ　学校安全対策課　学校安全担当
TEL：088-821-4533

Topics 6

第 11 回高知県社会教育実践交流会を開催します！

県教育委員会では、平成 27 年度より、様々な地域課題の解決や人と人との関係が密な地域づくりをめざし、関係者の活動の活性化とネットワーク構築を図るための交流会を開催しています。

例年、100 人近くの参加者が集まり、実践事例に学び交流を深めることができ、昨年度は「違う職種の方の意見を聞くことができて参考になった」、「軸になる人が各地にいること、他市町村のすごい人を知る機会になった」、「自身のやりたい事が明確になり、やってきた事に自信ができた」「今回の交流で次の取組へとつなげるきっかけができた」など、多くの参加者から好評をいただきました。

今年度は、「もっと交流する時間がほしい」という多くのご要望を受け、分科会での実践発表と意見交換により情報共有する分散会（グループワーク）の 2 段階の交流の場を行うこととなりました。分科会では、地域で活躍されている 6 人の方々による実践発表を行います。

①ミニ図書館から始まり公園や多目的利用のできる場の提供をとおしたコミュニティづくり、②復活させた伝統野菜を核にした過疎高齢化地域の活性化、③部活動の地域移行を受け入れインターハイ出場を果たした事例、④大学生とともに行う子どもの居場所づくり、⑤PTA 活動をとおした子どもも保護者も楽しむ環境づくり、⑥地域住民から湧き出るアイデアとともにつくる子どもから高齢者まで楽しめるイベントづくりなど、盛りだくさんの内容となっています。

<昨年度の実践交流会の様子>

垣根を越えた様々な事例を聞くことができ、日頃の活動のヒントを見つけられるかもしれません！
社会教育に関心のある方ならどなたでも参加できます。ぜひご参加ください！！

第 11 回高知県社会教育実践交流会

■日　時　　令和８年１月 24 日（土）12:50～16:00　<受付　12:20～12:50>
■場　所　　高知県立青少年センター（香南市野市町西野 303－1）
■参加費　　無料
■内　容　　分科会・分散会による実践交流会
【分科会 A】
①酒井　紀子　氏（育つ会とおわ　代表）
②海老川 真美　氏（日南・大平集落活動センターひなたぼっこ　集落支援員）
【分科会 B】
③宮本　海帆　氏（硬式テニスクラブ　FSS.tennis-team　代表）
④学生合同なぶら、高知県青年団協議会
【分科会 C】
⑤北山　幸治　氏（高知県小中学校 PTA 連合会　会長）
⑥嶋田　あゆみ　氏（甲浦集落活動センターなぎ　集落支援員）

↑詳細情報はこちらで随時更新！

■申　込　　事前のお申込みが必要です。
メール、FAX または二次元コードでの電子申請で
令和８年１月９日（金）までにお申込みください。
⇒メール　310401@ken.pref.kochi.lg.jp
ＦＡＸ　088-821-4505

↑電子申請はこちら！

詳しくは生涯学習課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2025103100110/

問い合わせ　生涯学習課　社会教育支援担当
TEL：088-821-4911

Topics 7 第１回「幡多の日」を開催しました

11 月 16 日（日）に、「第１回幡多の日～幡多でなりたい自分になろう！～」を開催しました。

この取組は、幡多地域教育協働コンソーシアム会議が主催するもので、子どもたちに地域への愛着を感じ、将来、地域を支える人材になってもらうことを目的としたものです。

当日は、19 のブース（県立学校８団体、企業等 11 団体）を出展し、ステージ発表を６団体（県立学校２団体、企業等４団体）が行いました。また、会場に掲示した書道パフォーマンスの作品やチラシの作成、アナウンス、会場係などの運営は生徒が協力して行いました。

来場者からは、「幡多の魅力や知らなかったことを知れた」、「幡多地域のいろいろな事業所を改めて知れて、より地域に興味がわいた」という声も寄せられています。

本イベントは、ご協力いただいた幡多地域の６市町村、産業界等の皆さまの多大なるご尽力と、運営に関わってくださった生徒のみなさんの協力で行うことができました。

第２回の開催に向けて、学校と企業、地域等の新たなつながりが生まれるよう、よりよい内容の検討を重ねていきたいと思います。

詳しくは高等学校振興課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/311801/

問い合わせ
高等学校振興課　魅力化推進担当
TEL：088-821-4542

オーテピア高知図書館と高知県図書館振興計画の取組が「Library of the Year 2025 大賞」を受賞しました！

図書館の先進的な活動に対して贈られる「Library of the year 2025 大賞」を、今回、四国で初めて受賞しました。

日頃から図書館を利用していただいている県民の皆様、県内市町村立図書館をはじめ関係者の方々のご理解とご協力の賜物です。

この賞を励みに、これからも県内のすみずみまで読書・情報環境の改善に向けて取り組んでまいります。

令和７年度図書館サービス研修（専門研修）について

県立図書館では、年間を通じて、主に公共図書館の職員を対象としたさまざまな研修を行っています。

令和７年度は、高知国際中学校・高等学校にご協力いただき、研修機会の一つである専門研修を、「公共図書館と学校との連携・協力を考える」をテーマとして実施します。内容は、図書館を活用した公開授業、研究協議、講演です。

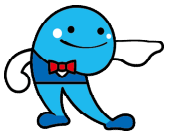
公共図書館の職員に加え、学校教職員や教育委員会の職員など、幅広く参加対象としますのでぜひご参加ください（定員 40 名）。

詳細は、実施要項をご覧ください。

※県立学校は各校へ、市町村には各教育委員会へ通知します。

参加申込みの受付は、12 月初旬に開始する予定です。

申込はこちらから



Topics 8

とさまなチャンネルに投稿した動画のご紹介♪

県教委公式 VTuber 土佐まなぶ presents！

▶ 「先生－私が高知にいる理由－」教員の魅力 PR 動画（東洋町立甲浦小学校 編）

高知県で働く県外出身の若手の先生に
先生になったきっかけとか
高知のことについて聞いてみたで！
どんなお話が聞けるかな♪

⇦ 教員の魅力 PR の動画はこちらから

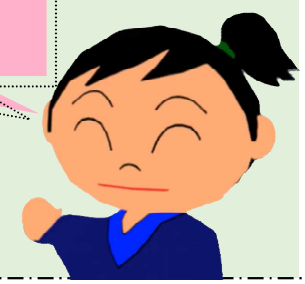
▶ 課長が行く！～高知大学教職大学院～

高知大学教職大学院で勉強しゆう
学校の先生方を県教育政策課の
三木課長が調査してきてくれたで！
どんなキャンパスライフを送りゆうか
気になるね。ぼくも行ってみたいな♪

高知大学教職大学院の動画はこちらから ⇨

▶ 新しい学校のリーダー研修 2025

県内の高校生たちが本気で地域課題に
挑んだ「新しい学校のリーダー研修」
に密着したがやって！
未来のリーダーたちの頑張りを
ぜひ見てよ！



⇦ 新しい学校のリーダー研修の動画はこちらから

▶ パパの子育て座談会

高知県で子育てをしゆう
パパ保育士さんたちが大集合！
子育ての中で感じるあれこれを本音で
自由におしゃべりしてくれたがやって～
ぜひチェックしてよ～

パパの子育て座談会の動画はこちらから ⇨

詳しくは YouTube チャンネル『とさまなチャンネル』をご覧ください。
https://www.youtube.com/@user-dx7bm9tn8h

問い合わせ
教育政策課　教育企画担当
TEL：088-821-4731

昨年度の２月号から始まった「とさまなコラム」。
２回目のコラムニストは今城県教育長！
今城教育長がみんなぁに伝えたいことがあるみたいやき、ぜひ読んでよ～。

不祥事根絶～この「危機的状況」を克服する、教職員の行動変革～

日頃から、教職員の皆さんが誇りと情熱、使命感をもって本県の教育に携わっていただいていることに、感謝申し上げます。また、校内から不祥事を根絶しようという強い意志のもと、不祥事防止研修を定期的に行い、コンプライアンス意識の向上に積極的に取り組んでいただいていることに対しても、大変心強く感じています。

しかし、本年度に入り、小学校で盗撮事案が発生し、さらに数か月の間に、現職の教員が逮捕される事案が続けて発生しました。本年度の逮捕者は合計４人。これは、令和元年以降で過去最多の逮捕者数となっています。また、令和元年以降の逮捕事案全 11 件のうち９件がわいせつ行為によるもので、そのうち６件が児童生徒性暴力等に該当する事案となっていることも、極めて由々しき事態であると言えます。

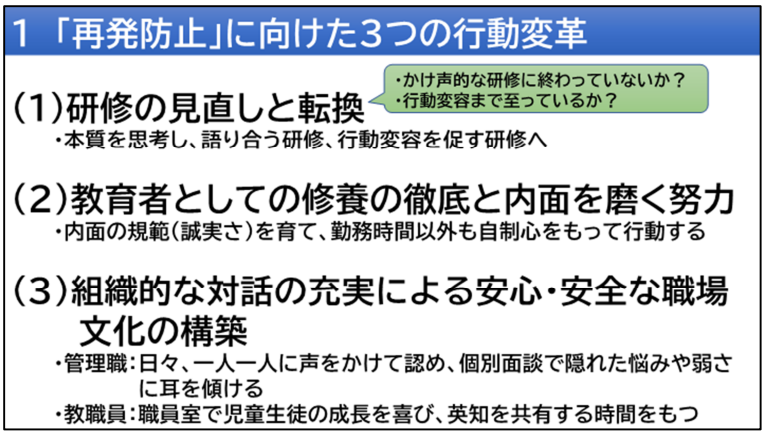
この重大な事態を受け、私自身の切実な思いを直接伝えるべく、11 月５日に緊急オンライン会議を開催し、徹底的な「再発防止」と「信頼回復」に向けた行動変革を強くお願いしました。

・－・

１　「再発防止」に向けた３つの行動変革

（１）研修の見直しと転換

「各学校における不祥事防止研修、校内点検、不祥事防止に関するルール作りは、危機管理意識を学校全体に浸透させるための大事な取組です。これらを継続していただくことはもちろんのことですが、これまで研修を重ねてきたにもかかわらず、こうした事態を食い止められなかったという事実をしっかりと受け止め、次のような視点で、その内容や方法を見直していただきたいのです。



①「○○したら○○という懲戒処分になるから気をつけよう」といった「全体へのかけ声的な研修」に終わっていないか。

②これまでの研修は真に一人ひとりの行動変容まで至っているものとなり得ているか。

そのうえで、「なぜ私たちはそのような行為を起こしてしまうのか。どうすれば良かったのか。」といった本質を思考し、語り合う研修へと転換してください。すでに実施している学校もあるかもしれません。学校現場の「急な変更はできない」という声も理解しますが、柔軟な発想と臨機応変さを発揮し、具体的な行動変容を促す研修の実現を強く求めます。

（２）教育者としての修養の徹底と内面を磨く努力

真に安全な学校を実現するためには、制度やルールを整えると同時に、教職員の内面の規範（誠実さ）を育てることが不可欠です。教育基本法にもある通り、「絶えず研究と修養に励む」ことは、プロとしての責務です。特に「修養」については、「教育者としての誇り」「子どもの尊厳を優先する姿勢」、そして「組織で互いを支え合う責任感」といった意識を育むことが大切です。

日々の振り返り、対話、研鑽を怠らず、内面を磨き高める努力を継続してください。勤務時間以外であっても常に自制心をもって行動し、「自分の言動は教育者として子どもたちに誇れるものなのか」、内省を続けることを忘れないでください。

（3）組織的な対話の充実による安心・安全な職場文化の構築

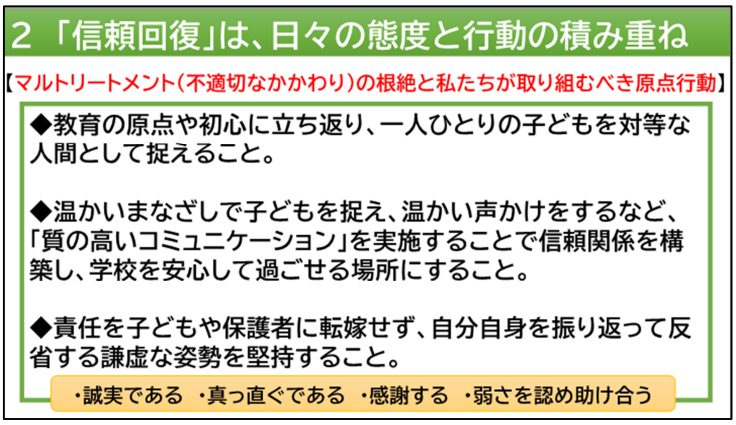
危機を防ぐ鍵は、規制やルール作りだけでなく、人の温かい心と信頼関係です。大切なのは、職員同士が、互いの変化や悩みに気づき、声を掛け合える関係性を築くことです。校長先生をはじめとする管理職の皆さん。日々、**必ず一人ひとりの先生方に声をかけ、その努力を認め、褒めることを欠かさないで**ください。また、「個別面談」や「対話」を行い、講師を含む全ての職員と真剣に向き合うとともに、隠れた悩みや弱さの声に耳を傾けていただきたいのです。「弱さを見せたら負けだ」と踏ん張っている方もいるかもしれませんが、弱さを出せる職場の方が強い組織です。

・－・

2 「信頼回復」は、日々の態度と行動の積み重ね

私たちが失ってはならないものは、子どもたちからの信頼です。信頼は、言葉や理念だけでは回復しません。毎日の態度と、行動の積み重ねでつくられるものです。子どもたちは、私たちの背中を見ています。誠実であること、真っ直ぐであること、あらゆることに感謝すること、弱さを認め助け合うこと。その姿を一緒に示していきましょう。

そして、この危機を機に、「マルトリートメント（不適切な関わり）の根絶」を掲げます。



①教育の原点や初心に立ち返り、一人ひとりの子どもを、対等な人間として捉えること
②温かいまなざしで子どもを捉え、温かい声かけをするなど「質の高いコミュニケーション」を実施することで信頼関係を構築し、学校を安心して過ごせる場所にすること
③責任を子どもや保護者に転嫁せず、自分自身を振り返って反省する謙虚な姿勢を堅持すること

こうしたことを実行に移すことが、高知県の教育課題の解決、不祥事根絶に直結するものと確信いたします。

・－・

3 互いの心を支え合うために

教職員の皆さん、職員室は安心できる場所になっていますか。孤立している人はいませんか。愚痴一つ言わず、自分より相手を優先する。いつも平気な顔をして何でも引き受けるといった、「我慢強い人」はいませんか。我慢強い人は、人に迷惑をかけたくない、みんなの期待に応えたいという優しさ故に、自分の本音に蓋をし、自分を後回しにしてしまうことがあります。表面では笑っていても、その笑顔の裏では、何回も小さく傷つき、心の痛みを我慢し続けているかもしれません。

もし、あなたの周りにいつも笑顔で我慢している人がいたら、その心の中の器がパンパンかもしれません。月日が経つにつれてその人の顔から笑顔が消えてきた、自分の意見を言わない、自分の好き嫌いを出さないという人がいたら、その苦しみや葛藤を見抜ける「気づきのプロ」であってほしいと思います。

そして、もし、あなた自身がその「我慢強い人」ならば、自分がちょっと我慢すればいい、皆が笑えるならそれでいい、と人の幸せばかりを願う必要はありません。皆と一緒に笑っているのに、心の奥では泣いているのに、誰にも言えない。言ったら迷惑になると思う必要はないのです。たまには誰かに頼っていいのです。

皆さん、忙しい日々だと思いますが、職員室で、児童生徒の成長を喜び、若手からベテランまでの英知を共有し合う時間をもってください。それが、やりがいや貢献実感の高まりに繋がります。さらに、違和感や兆候を組織で共有することが職員を守ることにも繋がるのです。教師が育つ学校でなければ子どもは育ちません。そのことを校長を含め全教職員で実践することが、結果として不祥事防止に繋がるのです。

失った信頼を取り戻す道は平坦ではありません。残念ながら、大切な話であっても「他人ごと」として受け止めてしまうのが人間の弱さです。しかし、ここで共有したことを、皆さんの「自分ごと」として実行に移してください。そして、不祥事に繋がる僅かな前兆（氷山の一角）に、いち早く「気づく」プロの意識を研ぎ澄ませてください。私も、子どもたちのため、教職員のために、環境を整え、現場の声を聴き、必要な支援をためらわずに行います。先生方の挑戦や悩みを受け止め、支え、共に進む覚悟です。

・－・－・－